

令和元年度 第1回

帯広市廃棄物減量等推進審議会 議事録

(概要)

日時 令和元年7月18日(木)

午後4時～

会場 ソネビル6階 講習会室

出席委員(14名)

及川委員、岡田委員、兼子委員、木川委員、清川委員、
齊藤委員、佐藤委員、高山委員、谷田委員、戸沼委員、
松村委員、水上委員、山本委員、渡邊委員

※欠席者4名

事務局 川端市民環境部長、高橋清掃担当調整監、櫻田清掃事業課長、
一森清掃事業課指導担当課長、藤内管理係長、
前野ごみ減量係長、西本主査、中村主任、土田主任

傍聴等 報道関係者1名

1 開会

2 委員・事務局紹介

3 帯広市廃棄物減量等推進審議会について

・帯広市廃棄物減量等推進審議会の目的、法的位置づけ、これまでの経過と今期の予定等について事務局より説明。

4 正副会長の選出

・帯広市廃棄物の処理及び清掃に関する規則第3条第1項に基づき、委員の互選により会長に渡邊委員、副会長に齊藤委員が選出された。

5 正副会長挨拶

6 議事

・同規則第3条第2項に基づき、以後の議事は会長が進めた。

(1) 令和元年度帯広市清掃事業概要（暫定版）について

・令和元年度帯広市清掃事業概要（暫定版）について、事務局より説明。

○意見・質疑

なし

(2) 令和元年度清掃関連予算と主要事業について

・令和元年度清掃関連予算と主要事業について、事務局より説明。

○意見・質疑

委 員)

生ごみ堆肥化容器助成個数が以前の100件程度に比べ平成30年度は43件に半減している原因と、令和元年度助成予定個数を100個とした点についての考え方は？

事務局)

生ごみ堆肥化容器は各世帯にかなり行き渡ってはいると考えており、今年度は、45個ほど申し込みがある。

一戸建て庭付きでないと生ごみ堆肥化容器を設置出来ないことから、一定程度浸透したものと考えている。

委員)

電動生ごみ処理機はどうか？

事務局)

今年度20台中9台申し込みがある。一人世帯やマンション住まいの場合、電動生ごみ処理機のほうが手頃であることから、申し込みがあると考えている。

(3) 帯広市一般廃棄物処理基本計画（素案）について

- ・帯広市一般廃棄物処理基本計画（素案）について、事務局より説明。

○意見・質疑

委員)

冬は廃棄物処理においても様々な障害があると予測しており、雪対策について明記していただきたい。

会長)

廃棄物処理と冬の対策で関連する部分があれば、何らかの形で明記されていたほうがいいという意見なので、検討していただきたい。

委員)

現行の計画と一番大きな変更点は？

事務局)

今回、食品ロス削減の推進、災害廃棄物の適正迅速な処理というところが新しく加わった。

委員)

次回の審議会では、基本方針の中の目標値などについて審議するのか。

事務局)

その通り。

委員)

帯広市のリサイクル率は高いのか？

事務局)

帯広市のリサイクル率は道内主要 10 都市中 3 位で、排出量も少ないしリサイクル率も高い。

委員)

全国で比べるとどうか？

事務局)

全国の平均が 20.2%、帯広市は 25.5%なので、良い方である。
道内では苫小牧が 30%で、これはかなり高い。

委員)

高いリサイクル率を目指すために、どのような事を考えているか？

事務局)

ごみの総量を減らす事、資源ごみの中のリサイクル出来るごみの割合を上げる事を考えている。

委 員)

例えば、ペットボトルとかをきれいに出す事などか？

事 務 局)

プラスチック製容器包装をひと洗いして排出することでリサイクル出来るごみの割合が上がる。

市民の皆様にはかなり努力していただいているが、リサイクル率はなかなか上がらないのが現状である。

会 長)

現行の基本計画ではリサイクル率の目標は40%だが、達成出来ない部分である。

事 務 局)

趨勢としては、資源ごみは減少傾向にあり、リサイクル率が上がらない要因かもしれない。

委 員)

ペットボトルや缶はつぶさないで出す事でよかったか？

事 務 局)

その通り。

委 員)

町内会加入者はごみの排出マナーが良いように見受けられる。町内会未加入者への対応や、違反ごみの排出を繰り返している人への指導を徹底しなければリサイクル率やごみの量は変わっていかないと思う。

今までごみに関する相談先がわからなかったが、今回出席してわかったので今後は何かあれば相談させていただきたい。

会 長)

違反ごみについては、清掃事業課に連絡し指導してもらうように。

委 員)

目標値の考え方について、現行の基本計画では現状から乖離した高い目標値を定めていることから、目標を達成出来ていない。次期基本計画では、地域性などを考慮したうえで達成できそうな目標値を定めるのが良いと思う。

今後、プラスチック製容器包装が減り紙製容器包装が増えるなどの環境の変化を見越したうえで、国や北海道の目標値を参考にしながら設定していただきたい。

事務局)

現行の基本計画の目標値は、当時十分考えた上で設定したものではあるが、国や道の計画よりもかなり高い目標値だったことから、今年度の目標達成はほぼ難しいと考えている。

目標値については、国の目標値を参考にしながら、現実的な内容をこれから詰めていく。次回の審議会で、内容を説明しながら提案させていただきたい。

(4) その他

- ・今後の予定と議事録の公開について、事務局より説明。

閉会